

3170 心模様：初めて HP ご覧いただいた方へ

50 歳からの夢挑戦。試行錯誤の連続。いつまでたっても、悩みながらの前進。峠までのぼったかと思うと、次の山が待ち構えている。若者でない。いい歳なんだから。しかし、懲りない、くじけない。2 月に突入。人生第四半期、夢挑戦のスタート。諸般の状況が激変。環境や状況は厳しい。原点の再確認。

① 50 歳からの夢挑戦

夢は創るものと、世界一人旅へと飛び出して 4 半世紀、25 年が経過。
振り返れば、4 大陸 40 カ国、国内外地球 6 周分（約 25 万キロ）。その出会いや実体験は、
実に多くの写真や記録が蓄積されてきました。

② 名前「久楽迎古」の再確認

久楽は、「少年よ 大志を抱け！」のクラーク博士から、50 歳「中年よ 大志を抱け！」
人生はいつまでたっても本番。夢は創るものとビジネスの世界、経営者から命をかけたと言っている。180 度。
結果が出るかでなく、人生の決着がついている？当時、50 歳。人生のおつりでもないが…

勇気をもたらした嬉しい出会い。映画「風と共に去りぬ」。原作者は、マーガレット、ミッチェル。
「Tomorrow is another day」明日は別の日、明日は明日の風が吹く。この領域は初心者。180 度変身、夢挑戦。
50 歳からの夢挑戦の見通しはない。苦しい試練が多いだろう。しかし「苦楽」とは名乗らず。

永遠に楽しく創意工夫したいとの思いを込めてアーティスト名を「久楽」と。どん底だが、遊び心とチャレ心。

開き直るしかない。プライドと好奇心、負けず嫌いが、身を助けることに。

名前の「迎古」は、迎春の迎。原点、自然、歴史、祖先を大切に。「久楽迎古」は、温故知新。

今だから言える。特に自然からの学び「山はみどり、野に花、人にはこころ」

③ 「夢絵作家」命名の背景

「夢絵」と名付けたのは、初めて見る光景、夢のようなモチーフ、オリジナルの特注和紙を使用して、
浮世離れをしているということで命名。特許庁にも（2万円の収入印紙？）申請。
アメリカ・ボストン個展開催時、浮世絵～錦絵～夢絵、北斎—写楽—久楽（くら〜く）と。日本へ逆輸入。

東京銀座三越美術画廊、大阪阪神百貨店美術画廊、鎌倉芸術館、京都ホテルオークラ、
ホテル日航東京、鎌倉から帰京、京都文化博物館でも個展と旧日本銀行京都支店の会場で講演ほか新聞掲載。
毎週月曜日、産経新聞「地球のかおり」約8年書かせていただき、今日に至っている。
52歳で、3ヶ月ほどだが写真学校にも入学。若者との交流。懐かしい。あの頃の夢への情熱、今も。

今や昔の話。スポンサーやお金がなくなると、活動が大幅に制約されるのが現実。今後はほぼそとだが、
夢だけは大きく、人間、笑って頑張れば、どこかで花が咲く、と夢ばかり追う日々、目標があり楽しみながら夢挑戦。

夢のまた夢。「久楽迎古」のゆうちょ&銀行口座もある。共感応援。篤志家が現れるかもしれない。

久楽のホームページ、YouTube、世界の絶景シリーズ・地球のかおり1

YouTube 世界の動物シリーズ・地球のかおり2、ホームページ上に貼り付けたおかげで検索が倍増。

初めてご覧頂く方も多く、今は昔話ながら、今も写真は現役で楽しむ日々。子供たちにも夢を。

ダメ元で、トラベルライターにも夢挑戦。フェイスブックなどにも関わっていくのもいいのではないかと

友人知人、若者からも薦められた。始めなければ始まらないと、実践しながら勉強中。

いつまでたっても、少年のような夢挑戦が夢。年を経ると子供に帰るといふ。それも選択肢の一つ。

恥も外聞も、しかし、久楽世代の常識は厳守して。アイデンティティを求めて魂の世界をさまよう。

久楽の対象は、50歳、中高年。若者はじめ心の青年の方々がターゲット。

活動継続のための資金の補充も課題、夢と現実、できる時にできることを実践。恥かく汗かく、結構ではないか。

2月突入。実践。始めなければ始まらない。しぶとく、懲りないで…。継続は力。